

食料・農業・農村政策審議会企画部会(第 103 回) 議事概要

【日時】 令和 5 年 4 月 21 日 (金) 13:00～14:30

【場所】 農林水産省第 2 特別会議室

【出席委員】 大橋企画部会長、佐藤委員、中家委員、宮島委員、三輪委員、浅井委員、井上委員、大津委員、高槻委員、林委員、二村委員、山波委員、柚木委員、
(欠席：磯崎委員、堀切委員)

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書本文（案）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

(1) 食料・農業・農村白書本文（案）について

(中家委員)

- ・ 前回までの意見を反映いただき、わかりやすい整理に感謝。
- ・ その上で、次回以降の白書の作成に向けて以下をお願いしたい。
- ・ 1 点目は、多様な経営体について、現行の基本計画における「望ましい農業構造の姿」の中でも、担い手と併せて「多様な経営体」が位置付けられているが、白書の中では、「多様な経営体」という言葉が、どこにも出てきてないので記載を御検討願いたい。
- ・ 2 点目は、面積規模別の経営耕地面積或いは経営規模別の農業所得について、北海道と都道府県の農業の実態は大きく異なるため、都道府県と北海道と分けて表示をするなど御検討いただきたい。

(柚木委員)

- ・ これまでの意見を反映いただき感謝。とりわけ俯瞰図については、全体を理解する上でも、書かれている内容の相関関係を理解する上でも非常に分かりやすく、大変有意義と感じている。
- ・ 次回以降でも結構だが、年金については、加入状況みたいなのところも少し数字を加味していただければ有り難い。
- ・ 今回、特に食料安保関係の特集を組んだということで、大きな関心と呼ぶと思うが、食料問題について国民の関心が高まっている時でもあり、白書の中身についていかに国民各層に周知をしていくのか、具体的な対応についてもぜひお考えいただきたい。
- ・ 4 月から、地域計画の策定作業を 2 年間にわたって行うが、白書に整理していただいた貴重なデータや考え方というものを、地域の中での話合いに生かせるようにしていく必要があると思っており、そういう意味では、この概要版等をできるだけ多くの

方々の目に留めていただくような取組が必要。

- ・学校教育との連動も考慮いただくことで、若い世代も含めて食料・農業・農村の在り方についての議論を深める契機になるのではないかな。

(三輪委員)

- ・これまでの議論を含めて非常に分かりやすくまとめていただき感謝。
- ・コスト上昇分の適切な価格転嫁について、農業を普段からしていない方には何が問題なのかストレートには理解しにくい部分がある。生産資材の価格指数が上がっているが、農産物価格指数が上がっていないため、そのことが収益率を落としている等を明確に書いても良いのではないかな。後に説明が出てくるが、早めの段階に書いていただくとストレートにメッセージが伝わりやすい。
- ・外国人材に関する記述について、現在の構成では労働力として外国人材すべてをカウントしていると誤解を与えてしまうように感じる。これまで現場で様々な課題が起きている中で今回の制度見直しがあるので、今の議論や方向性がよりストレートに表現できるような形で工夫をしていただくことが必要。
- ・外国人による農地の取得について、白書では受け身な形での表現になっていると感じる。(採用の可否は農水省の皆様にご判断いただければと思うが、)農水省として、もしくは政府として基本的なポリシーと今の法体系や運用の中で、きちんとブロックできているといったことを書くべき。
- ・農山漁村発イノベーションについては、非常に重要な政策だと理解。ただし、旧来の農商工連携や6次産業化の範疇に入る事例だけを並べているのは、少しミスリードな部分もあると感じる。例えば、バイオマスや情報通信、エネルギー、もしくはスポーツやアートなど、今までの6次産業化でなかった部分ももう1事例くらいあると良い。

(林委員)

- ・各委員からお願いした各論を入れていただき感謝。
- ・分かりやすい図などは早めの段階で記載し、再掲する形でも良いのではないかな。
- ・EBPMの視点について、令和4年度に実施した事柄と、令和5年度に講じようとする施策をつなげる整理があると良い。

(山波委員)

- ・私たち委員の意見を満遍なく取り入れ、非常に素晴らしいものが出来た。

- ・地方で暮らす生産者として、地域計画を現場で実効性のあるものにするために、国の皆さんからのお力添えをいただきながら、農業委員会がしっかりと機能するような方策を考えて進めてほしい。現場の人間としても、できることは何でもしていきたい。

(二村委員)

- ・肥料原料の生産国が非常に偏在していることは一般消費者等にはあまり知られていないため、そうした情報を補足すると、より良い内容になるのではないかと。
- ・緊急対策の実施について、予算でこれだけ措置したということに加え、それが実際どれだけの方なり地域なりで利用され、どれぐらいの金額になったのかをぜひ記載をいただきたい。
- ・学校給食の地場産物の使用割合に関するグラフについて、消費者や市民が自らの県の情報など把握できるよう、数表をダウンロードできる等の工夫があると良い。
- ・地方公共団体の農林水産部門の職員数に関して、全体数との比較があると良い。
- ・「こども食堂をターゲットにして」という言葉について、表現上の配慮をした方が良いのではないかと。

(宮島委員)

- ・QRコードを使うなど様々な工夫をしているが、それでも読者に全部読んでもらうことはかなり難しい。むしろ辞書のような使い方をされると思うので、どういうニーズの方に、どこを読んで欲しいかを念頭に、きっちりと誘導でき、読んでもらえるようにしてほしい。
- ・産業全体や別の産業から見て農業はどうなのだろうという視点に立ったときに、日本全体でも遅れているデジタル化と女性の活躍が気になっている。
- ・デジタル化に関しては、随時スピード感を持ってフォローをする必要があるが、今の書き方で適度。
- ・女性に関しては、少しずつ上がっていればいいのか、割合が上がっていればいいのかという問題ではなく、人口減少の中で地域をどうやっていくかというところで、女性が非常に重要な鍵。各産業が、女性の能力を採り入れようと頑張っている中で、農業はどうするのかということ。
- ・問題はやはり環境。そこに今地域にいる方々の意識の変革が重要。また、女性農業者がサブとしてではなく、リーダーとして決定権まで含めた形で入ってこなければいけない。そういう形にするにはどうすれば良いのかを、皆真剣に危機感を持つよう、かなり強いメッセージを出していただきたい。

(高槻委員)

- ・俯瞰図は見事にまとめていただいた。また、ポスターについても対応いただき感謝。
- ・今後、年度ごとに、農水省のポスターを全部一覧できるページができると、その時々
の時代性やトレンドも分かるようになる。白書本体では分量が限られるが、WEB で
あれば紙面に制約されるような物理的な制約がそれほどないため、WEB ページの方
でもそのような工夫ができるのであれば、そこまでやっていただけるとなご良い。

(佐藤委員)

- ・白書が年々非常に進化しており、大変見やすく活用しやすい白書に出来上がっている。
- ・価格転嫁について、農業者の経営を圧迫していることがもう少し表立って見えた方が
良い。
- ・この状況であれば、このぐらいの値上げをしなければこの作物を作り続けることがで
きないなど、具体的な数字を載せていただければ、もう少し消費者の方からの御理解
もいただけるのではないかと感じた。

(大津委員)

- ・今回の食料安保の話と併せて、みどり戦略による環境保全型農業の推進ということが
大きな柱になると思うが、これまでどれぐらい温暖化ガスを削減できているかという
情報に加えて、例えば、このまま何もなかった場合と温暖化防止対策をした場合の
削減量の違いなど、いくつかのシナリオがあれば良い。
- ・高槻委員から御指摘いただいた、これまでの過去を遡ったポスターも良いが、今回の
ように所々で載せていただいているだけでも、絵があるから、良いという以上のメッ
セージが伝わる。
- ・北海道は、九州全体ぐらいの生産量があるので、北海道と他の都道府県を切り分ける
という案にも賛成。
- ・ポッドキャストや YouTube などを利用して、様々な意見が出るような仕掛けづくり
ができれば良いと感じた。
- ・女性農家のことについて、当事者としては、若い女性に入っていただきたいという気
持ちもあるが、例えばトランスジェンダーがこれだけ世間の話題になる中で、女性に
特化した働きやすさというよりは、様々な方への配慮が要るのではないかと。

(井上委員)

- ・イノベーション等による持続的生産体制の構築について、「耕畜連携」や「地域内循環」など、分かりやすいワードを用いて表現する方が、より耕種農家、畜産農家の連携が推進されているというイメージにつながるのではないかと。

(浅井委員)

- ・分かりやすくまとまっている。
- ・計画であれば、やはり日本の農業のこれからの計画やビジョンを描けば良いが、白書はどちらかというと、過去から今現在に対するもの。このため、過去に皆が決めた政策が今結果としてどうなったのかという評価の部分がもう少し含まれても良いのではないかと。

(牧之瀬情報分析室長)

- ・三輪委員、佐藤委員、二村委員等から価格転嫁、こども食堂、耕畜連携等の表現ぶりについて御意見をいただいた。御意見を踏まえて書き方を工夫して参りたい。
- ・柚木委員から白書を作成した後はどう活用していくかということが大事という御意見をいただいた。食料・農業・農村の動向をより多くの方に御理解いただくために、この白書をツールとして活用して参りたい。令和4年度白書についても公表後に全国各地で説明会を開催する予定で、デジタル媒体を活用したウェブサイトでの掲載や、省のフェイスブックやツイッターでの紹介にも取り組んでいきたい。積極的な広報活動により、国民の皆様に親しみを持って読んでいただけるよう工夫して参りたい。
- ・宮島委員から QR コード等の御意見をいただいた。デジタル化の拡張性を生かすことが重要になっており、令和4年度白書においては全ての章節に QR コードを設けている。これを起点にして読者が様々な形で関心を持っていただけるようにしていきたい。ターゲット別のお話もあったが、例えば学生や消費者、農業者、ビジネスマンといったターゲットを定めた WEB ページの作成も工夫していきたい。
- ・宮島委員から女性農業者の関係での御指摘を踏まえて、記載を充実させたところであるが、一方で、そのような農村の意識改革も重要だと思っているので、来年度白書に向けて更なる充実を図って参りたい。
- ・柚木委員から農業者年金の加入実態、佐藤委員から生産コストの問題の御意見をいただいたので、来年度に向けて更なる充実を図って参りたい。
- ・浅井委員からはマクロでのインプット・アウトプットの御意見をいただいた。こちらについても、来年度白書に向けて検討して参りたい。

(坂本広報評価課長)

- ・林委員から御意見のあった EBPM の話について若干補足させていただく。今年は試行的な形でお出ししたが、ポイントはそれぞれの予算事業ごとに行政事業レビューのレビューシートを活用しているところ。農水省の予算事業は 500 以上あり、それを網羅的に紹介すると却って分かりにくくなる面もあると思っている。例えば事業の規模である程度ピックアップするなど、紹介の仕方を工夫していきたい。
- ・浅井委員から農地の集約の話为例に御指摘があったが、この話もまさに EBPM の話かと思う。農地の集約等の結果、どのような効果がアウトカムとして農家の所得がどのように上がっていくのか、それぞれの事業で見ると説明ができるものもあるが、まだ行政事業レビューの世界でロジカルに説明するトレーニングを積むような段階のものもある。説明ができるものについては工夫しながら対応して参りたい。

(牧之瀬情報分析室長)

- ・二村委員から学校給食のデータについて御意見いただいたが、白書本体に全都道府県のデータを記載しているので御覧いただければと思う。

(林委員)

- ・私の言葉足らずだったところを一点補足したい。坂本広報評価課長から予算項目が 500 ほどあって大変というお話いただいたが、全部作ってもらいたいとお願いしたのは、資料 3 の令和 5 年に講じようとする施策全 39 ページの項目との対照のこと。EBPM の関係で、資料 3 の左側の列に令和 4 年度動向編の項目を対応させ、目次合わせをするような形にさせていただきたいということなので、ぜひ御検討いただきたい。

(坂本広報評価課長)

- ・御指摘を踏まえてリンケージを検討したい。

(平形農産局長)

- ・二村委員から肥料原料が世界的に偏在していることをアピールしてほしいと御意見いただいた。概要だけでなく本文にもそこまで記載がない。事実関係は全くそのとおりであるため、これから書き加えたい。データは豊富にあり全て書くと量が多くなるためさらっと書くことになるかと思うが、しっかり記述させていただきたい。
- ・肥料の価格高騰対策の実績については、今年の春肥までを対象にしているため、まさ

に今支払いが行われている段階。概数としては大体 100 万戸を超える。普通の燃油高騰対策が 2 万戸くらいであるため、ものすごい数字になると思う。数字がしっかり出てくるのは来年度になると思う。

- ・井上委員から耕畜連携について御意見いただいた。ペレットのページには耕畜連携の記載はないが他のページにも耕畜連携のことが書いてあるので、ペレットのページにも書き込めるように考えていきたい。

(清水環境バイオマス政策課長)

- ・大津委員から温室効果ガスの削減についてシナリオを示すよう御意見いただいた。本文 199 ページに、みどり戦略に基づく CO₂ 排出削減に向けた取組について詳しく記載している。例えば農業機械の電化や、園芸施設へのヒートポンプ導入といった個々の取組の普及率等を示し、2030 年、2050 年の CO₂ 排出量のゼロエミッションを目指す上でのシナリオ的なものを文章で記載している。一方、複数のシナリオでの比較をすぐに記載することは難しい状況。どのように対応できるか相談させていただきたい。

(青山農村振興局長)

- ・三輪委員から本文の 234 ページの農山漁村発イノベーションについて御指摘をいただいた。6 次産業化を発展した様々な交流を含めた写真を載せたつもりだったが、前向き感が足りないという御指摘をいただいたので、前向き感のある事例等も探してみたい。

(村井経営局長)

- ・中家委員から多様な経営体と担い手の関係で御意見いただいた。このことについては、基本法検証の議論の中でも重要な論点になるため、引き続き議論させていただきたい。
- ・三輪委員から外国法人による農地所有について御指摘いただいた。外国資本による農地も含めた土地全般の所有については、共通課題として国会の方でも議論になっているところ、GATS との関係で土地を日本として留保しているかという問題もあり、制度的な課題がある。政府の公式文書としての白書でどこまで書けるかということがあがるが、ぎりぎりこのような記載にしているということで御理解をいただきたい。外国人材等の関係についても御指摘いただいたが、御指摘の趣旨を捉えきれない部分があったため広報評価課から確認し、対応できる点があるかどうか確認をさせていただきたい。
- ・宮島委員から御指摘のあった女性の記載については広報評価課からも話があったが、

委員の御指摘のとおり問題意識を持ってこれから取り組んでいきたい。

- ・ 大津委員からも女性の課題について重要な御指摘をいただいた。御指摘いただいた視点も踏まえながら今後の政策の進め方、来年度以降の白書での記載をどのようにするかについて引き続き検討して参りたい。
- ・ 複数の委員からの地域計画について御意見をいただいた。今回の白書の記載ぶりに直接影響はないと理解しているが、今後の地域農業をどのような姿で進めていくかについて各地域でしっかり話し合い、目標地図を描いていただく大変重要な取組だと考えている。経営局として関係部局と連携を図りながら、この取組をしっかり進めて参りたい。委員の皆様には、お気付きの点があれば機会を捉えて御指摘いただきたい。

(三輪委員)

- ・ 二村委員からも御指摘いただいたが資料2の102ページについて、大都市では学校給食における地場産物の使用率が低いことが伝わるが、東京都多摩地区では地場食材の活用プランを作成し積極的に地場食材の使用に取り組んでいる。東京都は金額ベースの食料自給率は3%程度と記憶しているが、多摩地域の食料自給率は7.7%。地場食材の全体量は少ないが使える地場産物を積極的に使っているという見せ方もあると思う。農村地域で地場産物が多く使われていることを伝えたいのか、都道府県の政策によって差があることを伝えたいのか、どのようなメッセージを伝えるかが重要。東京や大阪の地場産物の利用率が低いことが最終的なメッセージとして捉えられてはもったいないと感じる。
- ・ 基本法検証部会の委員と重複している方も多いと思うが、その他の委員にも白書を読んでもらうと基本法検証部会の議論の推進にもつながるのではないかと。基本法検証部会でもパワーポイントや表で様々な資料を丁寧に出してもらっているが、白書に記載されて見えてくるものもある。

(大橋部会長)

- ・ 予定の時間となったので、特段のことがなければ審議は以上とさせていただきたい。白書の案文については、本日の議論やその後の情勢変化等を踏まえての調整が必要となる。今後の調整と修正については、部会長に一任頂くこととし、事務局案を企画部会として承認して良いか。

(「異議なし」の声)

- ・ 本企画部会の議決については、審議会の議決とすることとされている。白書については、ただいまの承認をもって、後ほど食料・農業・農村政策審議会として、農林水産

大臣に答申したい。

- ・今回は講じようとする施策について初めて議論し、今後どのような形でこれを見せていくのか、来年度以降の白書の在り方も含めて基本検証部会でも議論される可能性もあると思っている。
- ・広報評価課長からも EBPM について説明があったが、政策評価も実態面として変わり節目を迎えてるところもあるかと思う。全体を見ながらより良いものになっていけば良いと思う。

以上